標準仕様書

エコパッキン気密

ＥＰＫ－１０２ＳＰ
ＥＰＫ－１２０
ＥＰＫ－１４０

年　　月　　日

建築主	住　所	
	氏　名	印
施工者	住　所	
	氏　名	印

株式会社キタイ製作所

２０２０年5月　発行

エコパッキン気密　標準仕様書

●本仕様書は軸組工法及び枠組工法にエコパッキン気密を使用する際に基準となる施工要領を示すものです。必ず本仕様書並びに製品に同梱されております施工説明書に従って設計・施工を行って下さい。

●本仕様書に記載のない内容につきましては、建築基準法並びに同施工例及び住宅金融支援機構監修の共通仕様書等に従って施工して下さい。

●本仕様書に記載された使用取扱い条件を逸脱した本製品の使用の場合は、本製品に関する性能・品質及び構造体の安全性について保証できません。

目次

１：適用範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２Ｐ
２：構成部材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２Ｐ
３：性能諸元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３Ｐ
４：設計上の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・３Ｐ
５：施工の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４Ｐ
６：施工方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５Ｐ
７：防鼠材・水切りの施工について・・・・・・・・５Ｐ
８：製品納まり図・・・・・・・・・・・・・・・・・６Ｐ
９：安全性確認資料・・・・・・・・・・・・・・・・６Ｐ
　９－１：鉛直荷重に対する許容耐力
　９－２：めり込み許容耐力

1：適用範囲

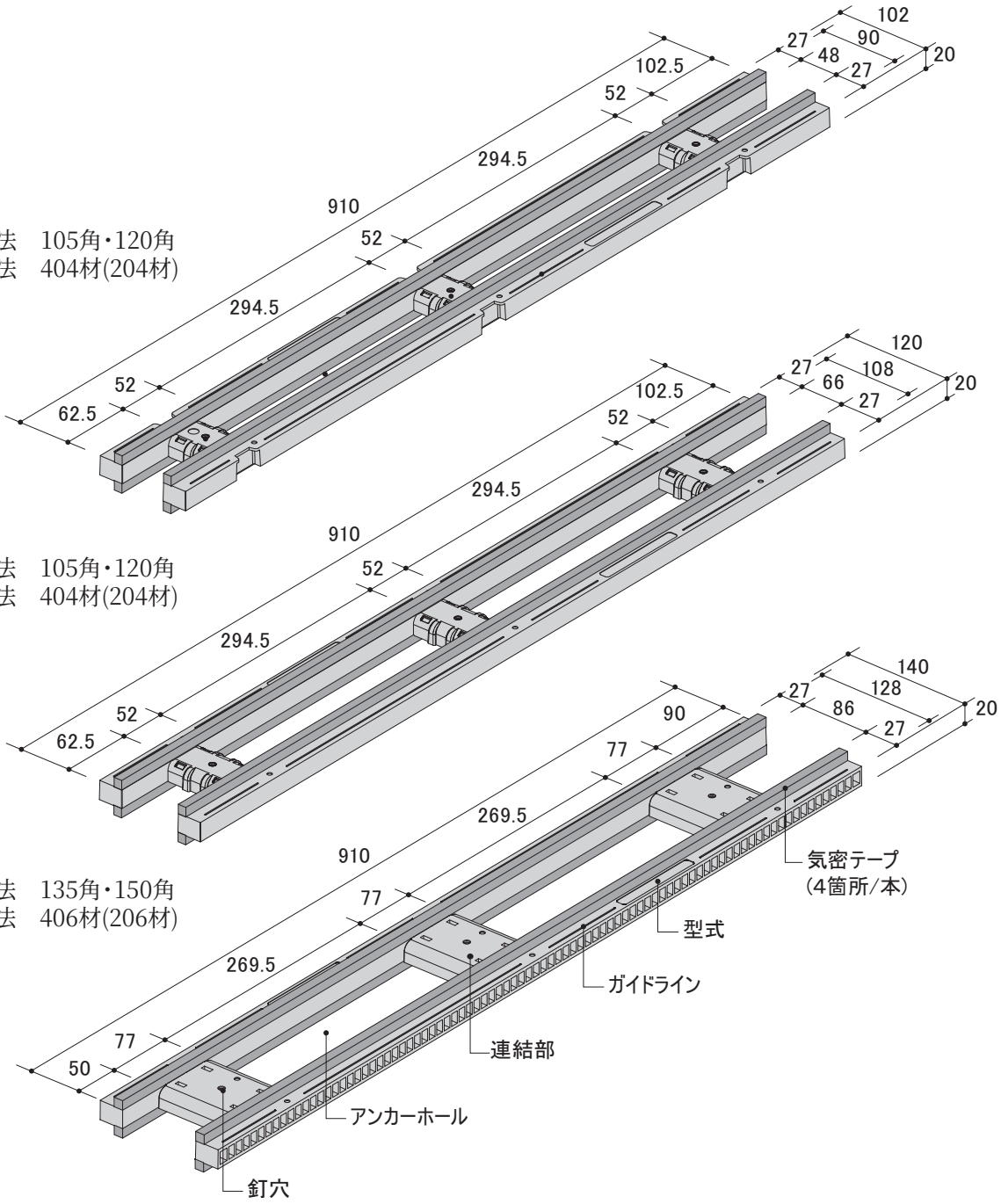
本仕様書は軸組工法及び枠組工法の住宅の床下換気部材として㈱キタイ製作所が販売するエコパッキン気密について適用する。

2：構成部材

EPK-102SP
対応土台
軸組工法　105角・120角
枠組工法　404材(204材)

EPK-120
対応土台
軸組工法　105角・120角
枠組工法　404材(204材)

EPK-140
対応土台
軸組工法　135角・150角
枠組工法　406材(206材)



	構成部材		
型番	EPK-102SP	EPK-120	EPK-140
寸法	910×102 ×20 mm	910×120 ×20 mm	910×140 ×20 mm
重量	約650g	約740g	約900g
材質	本体：再生ポリプロピレン複合樹脂 気密テープ：ＥＰＤＭ(発泡ゴム)		
梱包	10本/ケース		
付属品	ジョイントシール：15枚 (ＥＰＤＭ) 40×60×3 mm 施工説明書：1枚		

3：性能諸元

圧縮強度	JIS K 7181	37.6MPA
曲げ強度	JIS K 7171	33.6MPA
曲げ弾性率	JIS K 7171	2118MPA
衝撃強度	JIS K 7111-1	5.2KJ/㎡
耐薬品性	JIS K 7114	外観変化ナシ

4：設計上の注意

・エコパッキン気密は必ず基礎と土台の間に入れて下さい。
・エコパッキン気密を鉄骨造には使用しないで下さい。
・基礎は住宅金融支援機構監修の共通仕様書等に定められた基礎と同等以上の布基礎またはべた基礎（立ち上がりを有するもの）として下さい。
・アンカーボルトは住宅金融支援機構監修の共通仕様書等に基づき埋設して下さい。
・防腐・防蟻処理は建築基準法や住宅金融支援機構監修の木造又は枠組壁工法住宅工事仕様書((財)住宅金融普及協力発行)と同等以上の共通仕様書に準じて必ず行って下さい。
・布基礎の立ち上がり部の切り欠け開口部は不要です。但し、内部点検用の通路としての切り欠けは必要です。
・土台は下記の木材を使用して下さい。
　①日本工業規格（JIS）に定める土台用加圧式防腐処理木材
　②日本農林規格（JAS）に定める保存処理木材（K1を除く）
　③認証木質建材（AQマーク表示品）として認証された保存処理木材（1種）
　④上記①～③と同等以上の防腐性能を持つ認められた木材
・アカマツ、クロマツ、ベイマツ及び広葉樹などのめり込み基準強度Fcvが8.1N/mm2を超える土台を使用する場合は構造確認を行って下さい。
・エコパッキン気密の土台に対する使い分けは［別表1］を参考にして下さい。
・本仕様書は平屋及び2階建ての住宅を想定して作成しています。3階建ての住宅に使用する場合は構造計算を行い、軸力等を考慮して安全性を確認した上で使用して下さい。

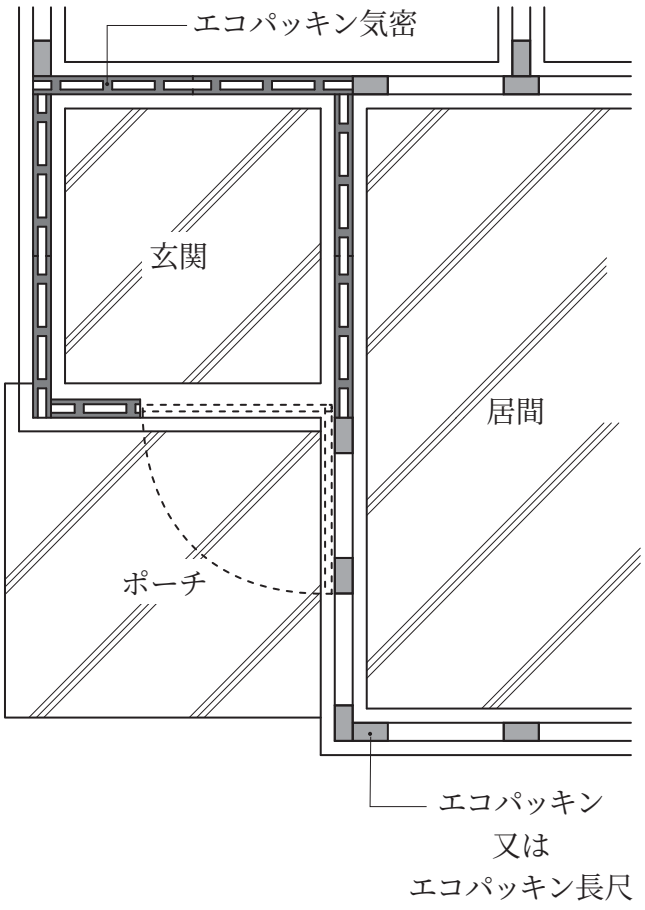
［別表1］

	土台寸法	エコパッキン気密
軸組工法	105角	EPK-102SP / 120
	120角	EPK-102SP / 120
	135角	EPK-140
	150角	EPK-140
枠組工法	404材	EPK-102SP / 120
	406材	EPK-140

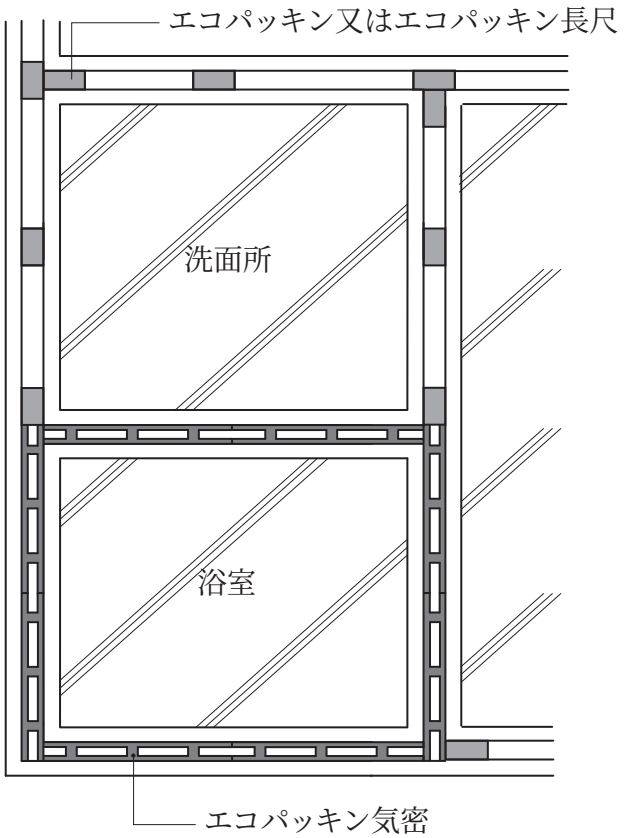
5：施工の注意

・エコパッキン気密の表裏各２箇所に貼られている気密テープは剥がさずに施工して下さい。
・エコパッキン気密の施工の際は、「土台側」の表示がある面を上にして設置下さい。
・エコパッキン気密を施工する箇所は、気密性を確保する為に、基礎天端は平滑なるように仕上げして下さい。
・エコパッキン気密に対しては、打撃等の不要な衝撃はあたえないで下さい。
・エコパッキン気密を充填断熱工法等の床下換気が必要な住宅で使用する場合には、玄関・勝手口廻り又は、浴室廻りに施工して頂き、居室床下には施工しないで下さい。
外張断熱工法等で基礎断熱を行う住宅で使用する場合には外周基礎全体に使用して頂き、内部の間仕切り基礎には床下全域の換気を確保する為、エコパッキン又は、エコパッキン長尺を使用して下さい。
・エコパッキン気密に直射日光が当たる恐れがある箇所には、水切り等を取り付けて、直射日光が当たらないようにして下さい。

■玄関・勝手口廻りの施工例



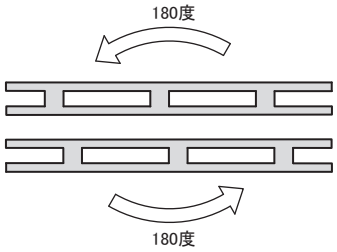
■浴室廻りの施工例



6：施工方法

・エコパッキン気密は建物の必要箇所（気密性を要する玄関廻り・勝手口等）に隙間を開けずに全周に敷き込んで下さい。

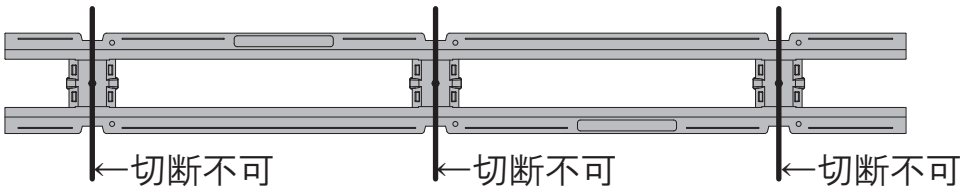
・ホールダウン・アンカーボルトの位置調整はエコパッキン気密自体を180度回転させて調整を行って下さい。



※エコパッキン気密への加工は、長さ調整の切断以外は行わないで下さい。

・長さ調整を行う際はノコギリ等の切断工具を使用して下さい。

・連結部の切断は行わないで下さい。

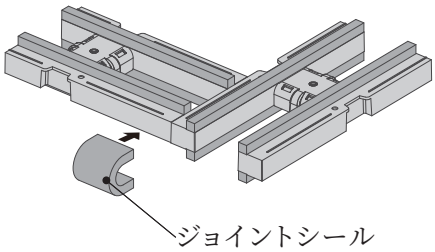


・切断時に生じるバリは必ず除去して下さい。

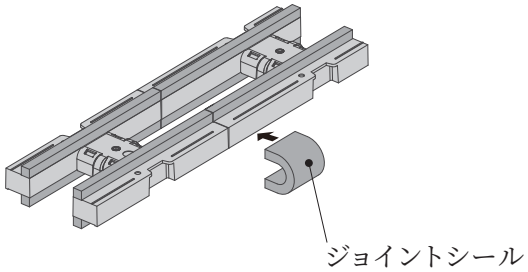
・切断の際は気密テープの長さを切断面に合わせて下さい。

・コーナー部、ストレート部の敷設箇所に問わず、接合部には必ず同梱のジョイントシールを使用して下さい。

■コーナー部



■ストレート部



※ジョイントシールは上下面から挟み込むようにして外壁側に貼り付けて下さい。

7：防鼠材・水切りの施工について

・エコパッキン気密は防鼠材の施工は不要です。

・水切り・防鼠付き水切りは軸組工法の場合は土台の外面に、枠組工法の場合は構造用合板の外側に取付けて下さい。

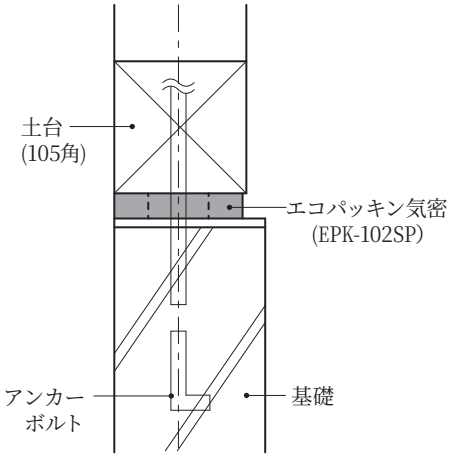
・水切りは455mmピッチ以内を目安にステンレス釘で取り付けて下さい。

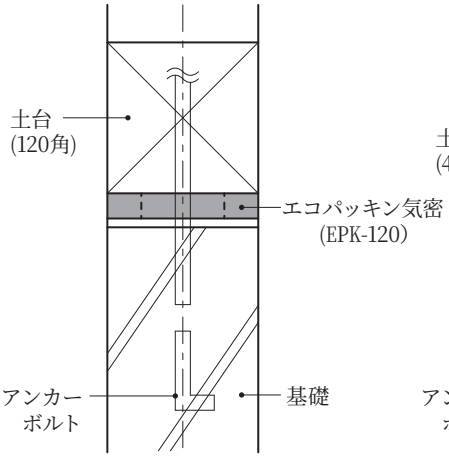
・水切り・防鼠付水切りは取付後、エコパッキン気密に直射日光が当たらないように注意して取付けて下さい。

・延焼の恐れがあり防火対策が必要な場合は、必ず金属製の水切りや防鼠付水切りを使用して下さい。

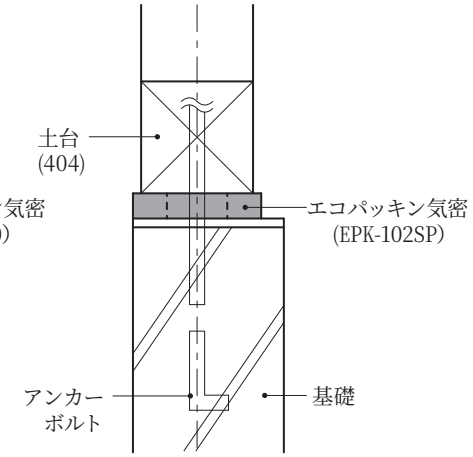
8：製品納まり図

■軸組工法





■枠組工法



9：安全性確認資料

3階建住宅に使用する場合、安全確認の為に以下の鉛直荷重に対する許容耐力とめり込み許容耐力を確認して下さい。

9－1：鉛直荷重に対する許容耐力

・エコパッキン気密の圧縮荷重試験により求めた降伏値は下記の通り

	降伏荷重Pf	備考
EPK-102SP	732.3KN	(一財)日本品質保証機構　試験報告書No1017-0281
EPK-120	837.4KN	(一財)日本品質保証機構　試験報告書No1017-0296
EPK-140	737.1KN	(一財)日本品質保証機構　試験報告書No6008-20000132

※降伏荷重Pfは試験により求められた降伏荷重の平均値

・軸組工法柱直下の荷重伝達範囲(図1参照)

柱直下の荷重伝達範囲は、柱・土台幅をWとすると3Wとなる。

105角の場合の荷重伝達範囲は315mm

120角の場合の荷重伝達範囲は360mm

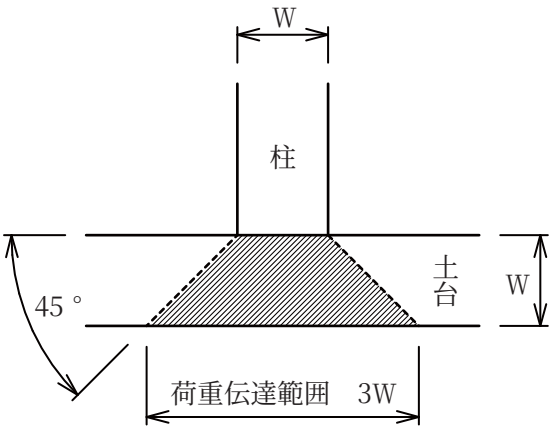


図1.軸組工法柱直下の荷重伝達範囲

・エコパッキン気密の鉛直荷重に対する許容耐力

(単位:KN)

	短期					長期				
	軸組工法				枠組工法	軸組工法				枠組工法
	105角		120角		404材	105角		120角		404材
	柱直下	壁下	柱直下	壁下	耐力壁下	柱直下	壁下	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-102SP	126.7	402.4	144.9	402.4	402.4	63.4	201.2	72.4	201.2	201.2
EPK-120	144.9	460.1	165.6	460.1	460.1	72.5	230.1	82.8	230.1	230.1

(単位:KN)

	短期					長期				
	軸組工法				枠組工法	軸組工法				枠組工法
	135角		150角		406材	135角		150角		406材
	柱直下	壁下	柱直下	壁下	耐力壁下	柱直下	壁下	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-140	164.0	405.0	182.3	405.0	405.0	82.0	202.5	91.1	202.5	202.5

※柱直下　主要な柱1カ所に掛かる鉛直荷重に対する許容耐力
（エコパッキン気密1本当たりの許容耐力×3W×910）
※壁下(耐力壁下)　1m当たりの耐力壁に均等に掛かる鉛直荷重に対する許容耐力
（エコパッキン気密1本当たりの許容耐力×1000/910）

9－2:めり込み許容耐力

・エコパッキン気密1本当たりの土台との接面積

(単位:cm2)

	土台					
	105角	120角	135材	150材	404材	406材
EPK-102SP	508.5	508.5	——	——	405.0	——
EPK-120	405.2	534.6	——	——	260.3	——
EPK-140	——	——	561.8	605.3	——	605.3

・栂（めり込み許容応力196N/cm2）に対するめり込み許容耐力

(単位:KN)

	短期						
	軸組工法						枠組工法
	105角			120角			404材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-102SP	99.7	34.5	109.5	99.7	39.4	109.5	87.2
EPK-120	79.4	27.5	87.3	104.8	41.5	115.1	56.1

	短期						
	軸組工法						枠組工法
	135角			150角			406材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-140	110.1	49.0	121.0	118.6	58.7	130.4	130.4

(単位:KN)

	長期						
	軸組工法						枠組工法
	105角			120角			404材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-102SP	49.8	17.2	54.8	49.8	19.7	54.8	43.6
EPK-120	39.7	13.7	43.6	52.4	20.7	57.6	28.0

	長期						
	軸組工法						枠組工法
	135角			150角			406材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-140	55.1	24.5	60.5	59.3	29.3	65.2	65.2

※1本相当　エコパッキン気密1本当たりのめり込み許容耐力
※柱直下　主要な柱1カ所に掛かる鉛直荷重に対する許容耐力
（エコパッキン気密1本当たりのめり込み許容耐力（＝1本相当）×3W×910）
※壁下（耐力壁下）　1m当たりの耐力壁に均等に掛かる鉛直荷重に対する許容耐力
（エコパッキン気密1本当たりのめり込み許容耐力（＝1本相当）×1000/910）

・桧(めり込み許容応力245N/cm2)に対するめり込み許容耐力

(単位:KN)

	短期						
	軸組工法						枠組工法
	105角			120角			404材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-102SP	124.6	43.1	136.9	124.6	49.3	136.9	109.0
EPK-120	99.3	34.4	109.1	131.0	51.8	143.9	70.1

	短期						
	軸組工法						枠組工法
	135角			150角			406材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-140	137.6	61.3	151.3	148.3	73.3	163.0	163.0

(単位:KN)

	長期						
	軸組工法						枠組工法
	105角			120角			404材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-102SP	62.3	21.6	68.5	62.3	24.6	68.5	54.5
EPK-120	49.6	17.2	54.5	65.5	25.9	72.0	35.0

	長期						
	軸組工法						枠組工法
	135角			150角			406材
	1本相当	柱直下	壁下	1本相当	柱直下	壁下	耐力壁下
EPK-140	68.8	30.6	75.6	74.1	36.7	81.5	81.5

製造元

KITAI MANUFACTURER

株式会社キタイ製作所

本社工場　〒538-0041 大阪府大阪市鶴見区今津北4丁目10番1号
TEL(06)6968-2921 FAX(06)6968-2926
東京営業所　〒130-0005 東京都墨田区東駒形2丁目13番10号ルミエール逆井101号
TEL(03)5608-5471 FAX(03)5608-5473

ISO9001:2015 認証取得 / ISO14001:2015 認証取得
本社・本社工場 / https://www.kitai-mfg.co.jp

●製品の改良のため、事前の予告なしに仕様・外観の変更を行うことがあります。